西豪州ウェイトシアガス田ステージ2開発 最終投資決断について



2020年12月23日 三井物産株式会社

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。 エネルギー第一本部長の大久保と申します。

本日最終投資決断の適時開示を行ったウェイトシアガス田ステージ2開発についてご説明いたします。

AWE買収後の進捗



[AWE買収]

- ✓ 三井物産は2018年に豪州石油ガス資源開発会社AWEを買収。 買収目的は以下2点。
 - 石油・ガス上流事業でのオペレーター機能獲得
 - ウェイトシアガス田をはじめとした豪州国内の優良原油・ガス資産ポートフォリオの 拡充

「AWE買収後の進捗]

- ✓ AWEとMitsui E&P Australia (MEPAU) の統合を進め、オペレーター 機能を順調に獲得・拡大。
 - ウェイトシアガス田ステージ1 (小規模生産プロジェクト) の生産量を拡大 (日量10TJ→日量20TJ)
 - 探鉱活動を通じウェイトシアガス田とバハラスプリングスガス田の埋蔵量を 拡大 (777Bcf→1,111Bcf)
- ✓ ウェイトシアの大規模開発を通じて既存優良ガス資産の価値を最大化

ウェイトシアガス田ステージ2開発について詳細をご説明する前に、2018年に実施 したAWEの買収に関し、その後の進捗をご説明いたします。

当社がAWEを買収した目的は、石油・ガス上流事業でのオペレーター機能獲得と、ウェイトシアガス田をはじめとした豪州国内の優良原油・ガス資産ポートフォリオの拡充にありました。

その後これらの目的を順調に達成していますので、現在の状況をご説明いたします。

AWEの買収以降、当社では既存の豪州E&P事業拠点であるMitsui E&P Australia とAWEの統合を進め、オペレーター機能を順調に獲得してきました。

さらに、ウェイトシアガス田の小規模生産プロジェクトの生産量を日量10TJから日量20TJに拡大し、探鉱活動を通じウェイトシアガス田と近隣のバハラスプリングスガス田の埋蔵量を拡大するなど、当社としてオペレーター機能を発揮し成果を上げてきました。

これらの進展を踏まえ、最適な開発計画の検討を重ねた結果、ウェイトシアの大規模開発(ステージ2)の実行に至りました。

本件は、当社がもつ既存優良ガス資産の価値をさらに高めるものです。



ウェイトシアガス田の概要をご説明いたします。ウェイトシアガス田は西豪州パース北方約350kmに位置する陸上ガス田です。

先ほど触れた通り、推定可採埋蔵量はウェイトシアガス田と近隣のバハラスプリングスガス田を合わせて1.111Bcfです。

権益保有者は、AWEがオペレーターを務め50%権益を保有し、豪州E&P事業者のBeach Energyが残り50%の権益を保有しています。

続いて、ウェイトシアガス田ステージ2開発の概要をご説明いたします。

今回の開発計画は、市場規模が大きく流動性が高いLNG市場への販売を基礎としてプロジェクトを立ち上げた上で、今後供給不足が見込まれる西豪州国内市場にてガス販売を行うものです。

本件の開発形態としては生産井・探鉱井の掘削ならびに250TJ/dの処理能力をもつガス処理施設の建設を予定しています。ガス処理設備の建設にあたり、EPCランプサム契約を締結する予定です。開発費用はプロジェクト全体で7.68億豪ドル(約593 億円)、当社持分で3.84億豪ドル(約297億円)を見込みます。

生産開始は2023年後半を予定しています。

ウェイトシアガス田にて生産されたガスは、西豪州の基幹ガスパイプラインであるDampier to Bunbury Natural Gas Pipelineを通じてNorth West Shelf LNGにて液化しLNGとして輸出します。2023年後半から2028年末までの間、年間140万トン(当社持分70万トン)のLNGを輸出するものです。生産されたLNGはアジア市場に販売します。

また、LNG輸出期間の後には需給が逼迫する国内市場にガスを販売します。ステージ2からのガス供給は、既にステージ1にて実施している国内向けガス供給を補強し、西豪州のエネルギー安定供給に寄与します。

ウェイトシアガス田ステージ2開発の戦略的意義



当社E&P事業が "Value over Volume"を追求する中、事業主体として独自のバリュー発揮ができる戦略性の高いプロジェクト。

E&P事業戦略「Value over Volume」

• 脱炭素社会に向かいEnergy Transitionが進む中、量より質を追求。Dual Challengeのニーズに応えるべく、当社らしい独自の価値創造ができる事業を主体的に展開する。

ウェイトシア事業の戦略的意義:

- オペレーターとしてガスバリューチェーンを構築することにより、国内最大級のウェイトシアガス田の価値を高めて商業化。(既存インフラ活用、アジアLNG市場への販売、西豪州国内市場への安定供給)
- 埋蔵量拡充からカーボンマネジメント事業(CCS・排出権等)に至るまで、 E&P機能と当社総合力の発揮による様々な広がりを追求する。

Copyright ⊕ MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

4

ウェイトシア開発は当社E&P事業戦略に合致する戦略性の高いプロジェクトです。

当社E&P事業は「Value over Volume」という方針を掲げ、世界が脱炭素社会に向かいEnergy Transitionが進む中、質の追求を重視していきます。より多くのエネルギーをよりクリーンな形で求められる「Dual Challenge」のニーズに応えるべく、当社らしい独自の価値創造ができる事業を主体的に展開します。

本案件は自らオペレーターとしてガスバリューチェーンを構築することにより、豪州最大級の陸上天然ガス田であるウェイトシアの価値を高めて商業化するという独自の価値創造に取り組むものです。LNG液化設備や幹線パイプライン等の既存インフラを活用の上、トレーディング機能を活かしたアジア市場へのLNG販売により事業を立ち上げた後、西豪州国内市場への長期安定供給を果たしていきます。

更には本事業を土台として、埋蔵量拡充による追加収益の取り込みからCCSや排出権等のカーボンマネジメント事業の展開に至るまで、E&P機能と当社総合力の発揮による様々な広がりを追求していきます。

気候変動への取り組み



当社の2050年「あり姿」Net-zero emissionsの実現に向けて、天然ガス開発と温室効果ガス排出量抑制を両立する。

ガス供給を通じて世界の環境負荷低減に貢献

✓ 中期的に天然ガスへの燃料転換を促進し、低炭素社会の実現に貢献。

プロジェクトからの温室効果ガス排出量の削減

- ✓ 高効率なプラント設計を採用することにより排出量を抑制。
- ✓ 西豪州政府の温室効果ガスポリシーに沿って、プロジェクト期間に亘り、 原料ガスに含まれるCO2を除去することによる排出量(*)を削減または オフセット。
 - (*) プロジェクトからの温室効果ガス総排出量の約60%と計算

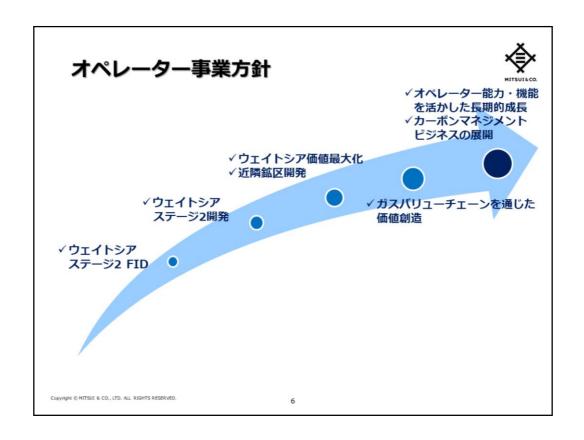
Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

5

続いて、気候変動への取り組みについてご説明いたします。

当社は2050年の「あり姿」Net-zero emissionsの実現のため、世界の環境負荷低減に中期的に貢献する天然ガス等への燃料転換を促進し低炭素社会を目指す"Transition"を具体的な取組の一つとして掲げており、本案件も、その一環との位置づけをしています。

プロジェクトからの温室効果ガス(Greenhouse Gas: GHG)排出量については、高効率なプラント設計を採用することにより(合理的に実行可能な範囲でできるだけ: As low as reasonably practicable)排出量を抑制します。また、西豪州政府の温室効果ガスポリシーに沿って、プロジェクト期間に亘り、原料ガスに含まれるCO2を除去することによる排出量を削減またはオフセットします。(原料ガスに含まれるCO2を除去することによる排出量は、プロジェクトからの温室効果ガス総排出量の約60%と計算されます)

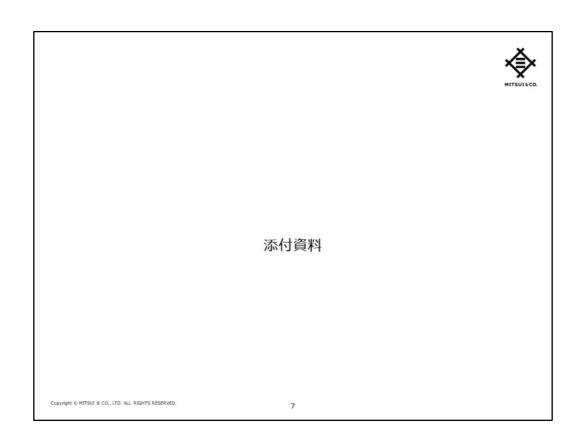


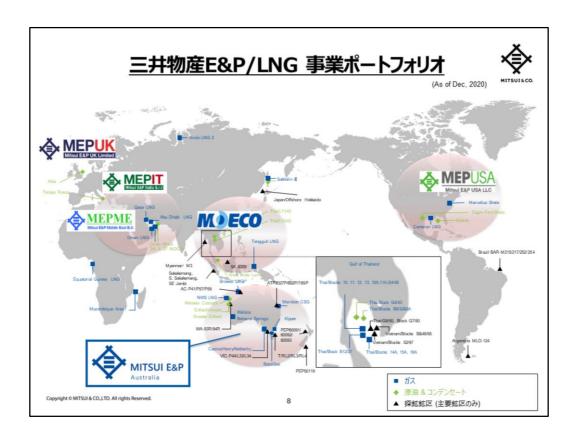
最後に、オペレーター機能を活かした事業展開の方向性についてご説明します。

今回のウェイトシアガス田のステージ2開発以降も、鉱区内の探鉱開発、近隣鉱区の開発、ガス販売ポートフォリオの最適化等によりウェイトシアの価値最大化を図っていきます。

また、本事業を土台として、将来的には、水素等の様々なガスバリューチェーンや 脱炭素の社会的要請に応えるCCS・排出権等のカーボンマネジメントビジネスへの 展開が期待されます。

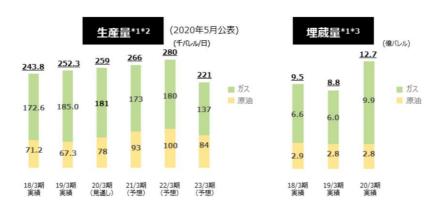
E&P事業を通じて培ったオペレーター能力・機能を活かし、これらの新規事業にも取り組むことにより、当社エネルギー事業の長期的成長を実現していきます。







三井物産/原油ガス持分権益生産量・埋蔵量



- *1. 石油換算 当社連結子会社・関係会社・非連結先の当社権益保有見合い
- *2. 一部プロジェクトでは当社持分販売量を適用 (予想)に関しては、新型コナウイルス段響を一部加味していない前提
- *3. 当社独自の基準による

Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

9

360° business innovation.

